

かけがえのない命のために、
たくさんの笑顔と出会うために

美しい自然と人の暮らしが響き合う。
まるでシンフォニーのように。
キッセイ薬品はこの信州で、
新薬の研究開発に取り組んでいます。

KISSEI

キッセイ薬品工業株式会社

https://www.kissei.co.jp

新しい
生きるを、創る。

A new way of life

独自技術で難病に挑み、ひとりの「生きる」に希望をとどける。
ユニークな機能性食品で、みんなの「生きる」を健やかにする。
京都から世界へ。
新しい時代の、新しい生きるを、
わたしたちは、創っていく。

日本新薬

NIPPON SHINYAKU CO., LTD.

なんとかしたい。
だから、挑む。

Sumitomo Pharma

Innovation today, healthier tomorrows

人類の歴史にはさまざまな挑戦者がいた。
どんなに失敗しても、彼らの熱意や想いが
何度も立ち上がらせ、その結果、常識を
打ち破り新しい世界を見せてくれた。
医薬はどうだ。
世界一高い山に登り、宇宙や深海を探索
できる時代に、私たちの体の中には未解決
の課題が山積している。
私たちにやるべきことがある。
助けなければならない人がいる。
だから、挑む。住友ファーマ

Sumitomo Pharma

Innovation today, healthier tomorrows

日本の医薬品供給額に
占める海外への依存状況

(%)

■国産 ■輸入生産 ■最終製品輸入

2013年

23年

(日本製薬工業協会の資料を基に作成)

創薬力強化に向けた総合経済対策における主な対応
(2025年度補正予算)

革新的医薬品等実用化支援基金事業

感染症有事に備えた治療薬・診断薬の世界トップレベル拠点の形成事業

難病・希少疾病治療グローバル研究開発支援事業

感染症危機対応医薬品等の確保

がん・難病の全ゲノム解析等の推進

バイオバンク利活用の推進

再生・細胞医療・遺伝子治療製造設備投資支援事業

バイオ後続品の国内製造施設整備のための支援事業

(内閣府の資料を基に作成)

健康と未来を守る

医薬品

「創薬エコシステム」
4月に工程表

国内で創薬をめぐる動きが大きく動き出す。政府は創薬・先端医療分野を「戦略17分野」の一つに位置づけ、官民で重点投資する方針を打ち出した。高市早苗首相が議長を務める「日本成長戦略本部」の下に、製薬大手やベンチャーキャピタル（VC）などで構成する作業部会を設置。海外に依存する医薬品のサプライチェーン（供給網）確保や画期的な医薬品を生み出す「創薬エコシステム」の構築に向け、国内外から投資を呼び込む方策を議論する。4月にも官民投資の具体策を盛り込んだロードマップをまとめる。

医薬品、安定確保急務
7割輸入 欧米との連携カギ

「長期にわたる戦略的な投資の枠組みを確立する。官民氏は「医薬品産業を国家戦略の中核に据える」と指している。武田薬品工業の「国家戦略の創設が不可欠だ」。武田薬品工業の「国家戦略の創設が不可欠だ」。武田薬品工業の「国家戦略の創設が不可欠だ」。

でも中国、韓国を下回る。官民氏は「医薬品産業を国家戦略の中核に据える」と指している。武田薬品工業の「国家戦略の創設が不可欠だ」。

「創薬エコシステム」の構築に向け、国内外から投資を呼び込む方策を議論する。4月にも官民投資の具体策を盛り込んだロードマップをまとめる。

創薬エコシステム」4月に工程表

厚生労働省は製薬会社などから資金を拠出し、スタートアップ育成のための基金を造成する。

スタートアップ長期支援
「創薬」補正で1800億円

新薬開発にはスタートアップの力が欠かせない。バイオ系VCの米アイチベンチャーパートナーズの吉川真由氏は「創薬分野では初めから世界を狙うアプローチが必要だ」と説く。国内より圧倒的に市場規模が大きいことに加え、早い段階で研究、臨床、承認の方針を決めることが求められるためだという。

だが、国内には海外展開に必要な「グローバルな開発成功者の層が薄い」と吉川氏は指摘する。世界にははたらく創薬スタートアップの育成に「VCの持つ「客員起

新薬開発にはスタートアップの力が欠かせない。バイオ系VCの米アイチベンチャーパートナーズの吉川真由氏は「創薬分野では初めから世界を狙うアプローチが必要だ」と説く。国内より圧倒的に市場規模が大きいことに加え、早い段階で研究、臨床、承認の方針を決めることが求められるためだという。

だが、国内には海外展開に必要な「グローバルな開発成功者の層が薄い」と吉川氏は指摘する。世界にははたらく創薬スタートアップの育成に「VCの持つ「客員起

厚生労働省は製薬会社などから資金を拠出し、スタートアップ育成のための基金を造成する。

JIS試験用ふるい&ふるい振盪機の専門メーカー

ES-65型の特徴

1.ロータリ型運動状態を応用しておりますので効率が高いです。
2.最小内径75mmのふるいまで使用出来ます。
3.小型で研究室から研究室への移動が容易に出来ますので、使用して頂く研究室相互の間で兼用出来て経済的です。

実用新案型ふるい

金網と枠部が一体構造になっています。

SJK 株式会社

飯田製作所

URL https://www.iida-ss.com/

パイオニアクリーン環境機器

あらゆるニーズに
パイオニア精神で挑戦します。

靴底を空気でキレイに
エア吸着マット

工場や事務所の通路。
エアシャワーの中に。

ブラシで掻き出し
エアで吸引
・設置もメンテナンスも簡単
・安全にも配慮

マット

靴底の汚れは瞬時に集塵ユニットへ回収されます。

オーダーメイド対応
洗浄型パスボックス

「通箱」
クリーニング

高速空気噴流でゴミ・
異物を吹き飛ばす

特殊ノズル(PAT)で
袋物にも対応可能

営業品目

クリーンルームダスター・シューズクリーナー・クリーンエアーカーテン・空気清浄機・エア吸着マット

株式会社

パイオニア風力機

本社・工場 〒458-0847 名古屋市緑区清里3-25 ☎(052)982-8850 FAX (052)982-8883
関東営業本部 〒226-0025 横浜市緑区十日市場町881-5 ☎(045)982-5005 FAX (045)982-5216
九州営業所・九州工場 〒769-1504 大分県速見郡日出町太神2929-3 ☎(0977)72-9301 FAX (0977)72-0239
東北仙台営業所 〒982-0841 仙台市太白区山三丁目1-10 ☎(022)217-9620 FAX (022)217-9621
E-mail:info@paionia.co.jp URL:https://www.paionia.co.jp/

愛知ブランド企業認定
愛知県 認定番号 508
2026年4月1日～2030年3月31日
Aichi Quality

認知症に、
新しい答えを。

認知症に、向き合う人がいます。
自分だけでなく大切な人のためにも、早期受診を決意する。
どれだけの勇気があることでしょうか。
万一のときは大きなショックを受けるかもしれない。
それでも、向き合うことを選ぶ。

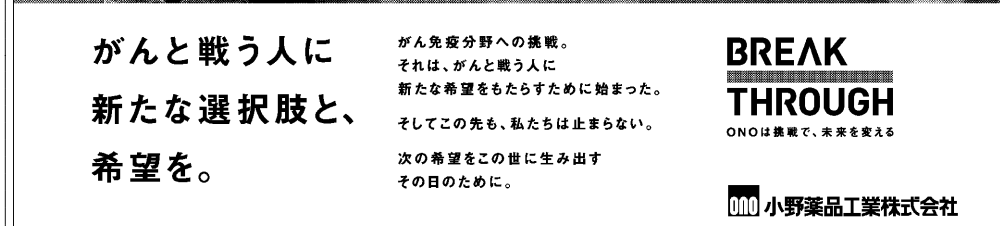
私たちは、そんな勇者たちとともに立ち向かい、
問い続けてきました。
そしてたどり着いた、新しい答え。
アルツハイマー病の原因に直接アプローチする世界初の治療薬。
でも、まだまだゴールじゃない。

案だけに頼らない、認知症予防策。
企業や自治体と連携し、健康な状態から最期の時まで
その人らしく生きることを支える社会の構築。
そして、認知症を根本から克服するための創薬研究。

私たちはこれからも問い続け、答え続ける。
すべての人が認知症を乗り越えられる、その日のために。

Eisai

エーザイ株式会社

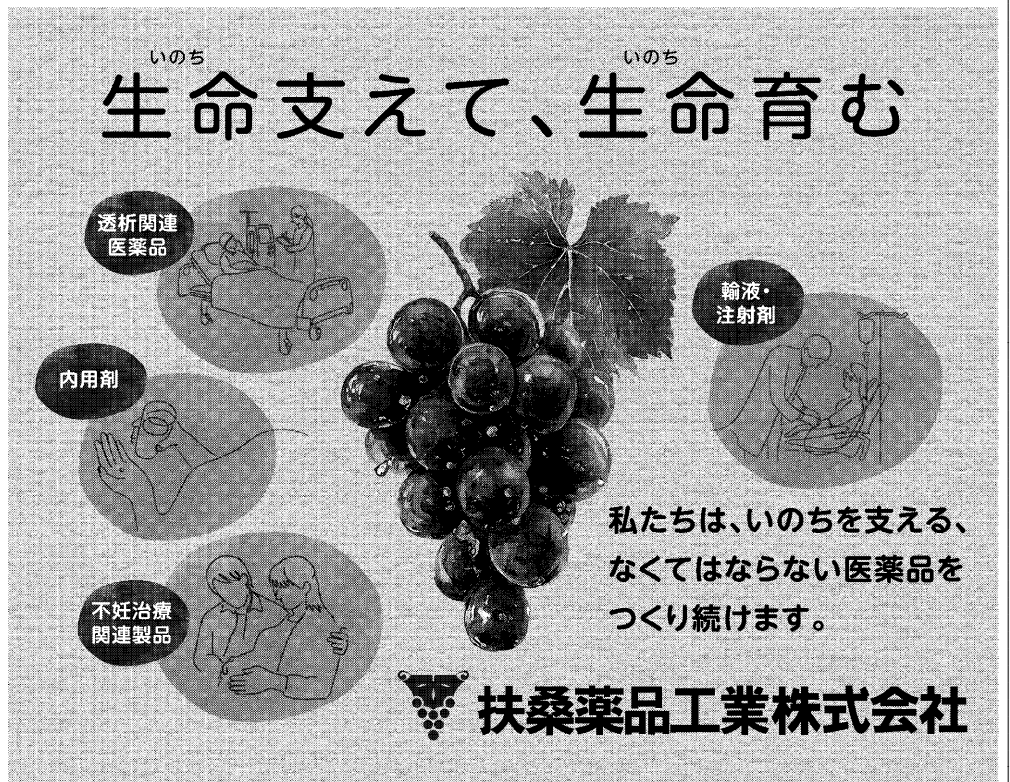


次世代の国産ワクチンをつくる。

世界の片隅で発生した感染症が短期間で世界中に広がる。
グローバル化は、感染症の拡がりが加速させた。
ワクチンの開発が、そのスピードに負けてはいけない。
新たな感染症の流行に備えて、
Meiji Seika ファルマは必要な時に必要なワクチンを
開発・生産できる体制を目指します。

未来まで守れ。

Meiji Seika ファルマ株式会社



【左】イーライリリーと田辺ファーマは研修で誤解や偏見の解消を目指す
【右】イーライリリーの「ゼップバウンド」

国内では少子高齢化が進み、医療現場での需要は増加するが、供給量は頭打ちとなるなど課題も出てきた。

明治ホールディングス（HD）で医薬品事業を手がけるMeiji Seikaファルマ（東京都中央区）は医療現場を支えるべく、KMバイオロジクス（熊本市北区）との強固な製販一体体制により、血漿分画製剤の安定供給に取組む。

血漿分画製剤は、血液中のたんぱく質を補うための「アルブミン製剤」や、感染症や自己免疫疾患の治療に使用される「グロブリン製剤」、特定の凝固因子が欠乏する「血友病」の治療などに用いる「血液凝固因子製剤」などがある。代替の利かない医薬品もあり、供給する製薬企業の責任は大きい。

一方で、国内では原料血漿の供給量は120万リットルと限界を迎えるなど、供給の課題への対応が必要となりつつある。



る2製品についてグループ内で製造から物流、販売までを一貫する体制を構築した。また今年1月には、KMバイオロジクスが製造販売している静注用免疫グロブリン製剤「献血ベニロン」について、Meiji Seika ファルマが販売契約を締結。26年4月から明治グループ内で同製剤の製造から販売まで一貫する体制が整う。

Meiji Seika
ファルマの永里

がんと向き合う人
生活サポート

小野薬品工業はがんの情報を発信するとともに、患者のライフスタイルを支える情報提供にも力を注ぐ。同社のがん患者向けのウェブサイト「ONCO ONCOLOGY」は、がん種ごとの症状やがん免疫、治療法、支援制度の解説に加え、患者のインタビュー記事なども掲載。体験談の発信を通じて、仕事・学業との両立や家族・友人との関係性など、がんと向き合う人の生活をサポートする。

治療支援 サイトで情報発信

免疫チェックポイント阻害薬の治療を受けている患者に対しては、副作用管理アプリケーション「ぶくサボ」を提供している。同アプリは日々の体調記録や特定の症状が出た際のアラート、記録を家族に共有する機能を搭載。副作用の兆候を早期に把握し、治療判断に役立てられる。また、動画投稿サイト「ユーチューブ」では、がん治療における医師との適切なコミュニケーションについて紹介。

血漿分画製剤

血漿分画製剤とは、ヒトの血液を原料とする医薬品。手術の際の止血管理や、肝臓の疾患などさまざまな重篤な症状の治療に使われる重要な製品だ。



Meiji Seikaファルマは血漿分画製剤の安定供給に取り組む

▲こうした中、Meiji Seikaファルマは25年、ロジクスが手がける2製品についてグ

「つなかる」と説明する。

血漿分画製剤は製造から供給までのリードタイムが長い。そのため、需要を予測し、常に適正な量を供給できる体制が重要だ。「医薬情報担当室（MR）を通じて医療現場の状況をすぐにKMバイオロジクスに伝わる体制ができる」（供給体制や需要の変動に迅速に対応できる）（永里社長）。

需要が拡大する血漿とグロブリン製剤の分画製剤においてサブライチエーン（供給が、血液から作れる網）を最適化し、需要ロブリン製剤の量は例の変動に柔軟に対応することで国内の安定供給に貢献する。ただ、給に貢献する。ただ、を喝す。

KMバイオロジクス国内において安定供給の取り組みが進む一方で課題も残る。高齢化の波は世界に押し寄せており、特にグロブリン製剤の使用量は右肩上がりだという。永里社長は、「免疫が弱まった取り組みは続く。」

原料に血液、安定供給

需要予測 製販一貫体制を整備

楽しく学ぶ 誤解・偏見なくす

高まる肥 満症の治療 ニーズを背 景に、抗肥 満薬の市場 投入が活発 化する。世 界保健機関 (WHO) によると、 2022年 世界のおよ ける18歳以上の過体重 または肥満の人口は約 25億人に達し、そのうち 体格指数 (BMI) が30以上の人口は約8 億9000万人に上る という。また厚生労働 省によると、19年に日 本でBMIが25以上だ った人口は約2800 万人とされる。

肥満症治療薬の市場 で主導権を握るのは海 外のメカファーマ(巨 大製薬企業)だ。デン マークの製薬大手ノボ ノルディスクの「ウゲ ービ(一般名セマグル チド)」「遺伝子組み換 え」と、米イーライ リリーの「ゼップバ ャンド(同チルゼパバ ンD)」が2強とされ 米国を中心に欧州やマ ジアでも普及が進む 日本でも24年2月ウーグービ、25年4月ゼップバウンドがそれぞれ発売され、国内市場の開拓と治療が盛 む。

一方で、肥満症はは 米人と日本人で違つた 特徴があるという。神 戸大学大学院医学研究 科の小川涉特命教授

説明する。
 抗肥満薬の開発や実用化が進む中で重要なのが、疾患への正しい理解だ。肥満は自己管理の問題と軽視され、当事者は自制心が低い人といった誤解を受けやすい。しかし小川特命教授は「肥満は、決して個人の生活習慣だけの問題ではない」と強調する。肥満や肥満症には遺伝的要因に加え、環境的要因

しい理解を促す体験型研修「肥満と肥満症のたっしいミカタ研修」を始めた。企業などに向けて研修を実施し、カードやすごろくを使って肥満や肥満症について楽しく学ぶことが目的だ。

両社は25年12月、一般企業向けに初めて同研修を実施した。医師監修の下で開発した一見えない偏見カードと「みえない要因すごろく」を使い、参加者同士で意見を交わしながら、社会に根付

しい理解を促す体験型研修を機に会社や家族に伝えたい」といった声が上がった。

肥満症は、新しい医薬品の登場で体重減少の治療効果が大きく進歩した。業慣への貢献度も高く、製薬企業は肥満症領域を新たな市場として大型の投資が続く。効果に加えて、経口剤など投与の利便性の高い医薬品開発に乗り出す動きも活発で、各社の開発パイプラインから、今後10年程度は新薬開発や実用化が加速しそうだ。

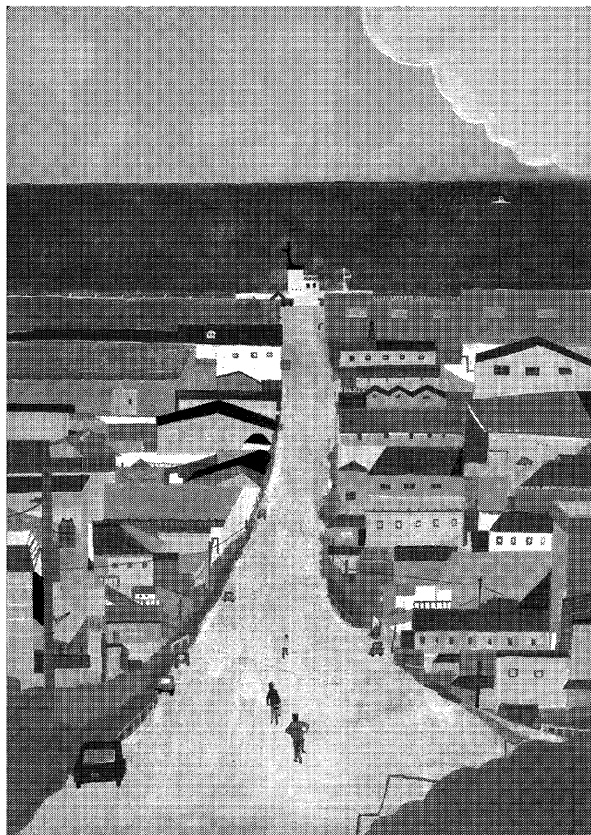
体験型研修を始動

楽しく学ぶ
誤解・偏見なくす

製薬企業の役割は、医薬品の開発や供給だけに留まらない。社会に向けて疾患についての正しい理解を促すことも重要な責務だ。正しい理解は患者の適切な治療だけでなく、職場など周囲の環境改善にもつながる。また、近年は医薬品の安定供給も問題となっている。医療現場では代替品がない医薬品も多くあり、製薬企業は安定的に薬を届けられるよう取り組みを進める。

や経済的な要因などから、**「肥満は自己管理の問題」**という思い込みが、複雑に絡み合う。

健康づくりは幸せづくり



病気になると自分で懸命に治ろうとする体。

そんな健気で優しいあなたの体の声に耳を澄まして

薬を研究・開発してきたゼリア新薬。

消化器系を中心とした医療用医薬品から

コンドロイチンをはじめとする

コンシューマーヘルスケア事業まで。

すべての人に健康でいきいきと生活してほしいという願いは

今、さまざまな取り組みとなって広がり続けています。

クリーンルーム対応ロボット掃除機

C30CR

製品詳細は特設ページから ▶



製薬各社は革新性の高い医薬品で医療へ貢献する。新薬の実用化に加え、治療の利便性を向上する技術によって患者や家族の負担を軽減する動きも出てきた。希少疾患は治療法が限られることが多く、アンメットメディカルニーズ（未充足の医療ニーズ）が高い領域だ。また、がんは患者数も多く、新たな医薬品の開発が活発だ。新薬の登場は、これまで治療が難しかった疾患に新たな選択肢を提供し、患者へ貢献していく。

武田薬品工業の「リブマリー」



ALGSは、食物の消化や吸収を助ける「胆汁」の流れが滞った胆汁うっ滞に伴う痒の治療薬として、「リブマリー」を発売した。同疾患に伴う痒に対する治療薬は日本初で、新たな治療選択肢として期待される。

未踏領域に新たな治療薬

これらの疾患に伴う激しい痒は、患者の生活に大きな負担となる。武田薬品工業は得意とする消化器やがん領域で安定的に成長しながら、遺伝性血管性浮腫（HAE）治療薬「タクザイロ」などを含む希少疾患領域、さらに血漿分画製剤といった領域を事業の柱と位置づけ、革新的な医薬品の創出や開発に力を注ぐ。

希少疾患

武田薬品工業は近年、希少疾患領域での新薬開発に力を入れている。同社は25年6月、遺伝性疾患のアラジール症候群（ALGS）と進行性家族性肝内胆汁うっ滞症（PFIC）の胆汁うっ滞に伴う痒の治療薬として、「リブマリー」を発売した。同疾患に伴う痒に対する治療薬は日本初で、新たな治療選択肢として期待される。



現在検討が進むのが、血液検査によるAD診断だ。侵襲性が低い血液検査によって、早期治療の好循環の実現が可能となる。

アルツハイマー病

エーザイは、在宅での治療も可なり、治療にかかる負担を軽減することでAD治療に貢献する。今後重要となるのが、ADの診断だ。レケンビによる治療の対象となるかどうかの確認には、陽電子放射断層撮影（PET）検査や脳脊髄液（CSF）検査により、脳内にアミロイドベータ（β）が蓄積していることを調べる必要がある。しかしPET検査は高額で、CF検査は侵襲性が高いという課題がある。

週イチ注射 「15秒」

がん領域

アステラス製薬はがん領域において、世界市場での存在感を高めてきた。抗体医薬品だ。抗原と抗体の結合は「ピロイ」を調べる検査の浸透が進んだことで、売上高も想定外に伸びた。がん領域の製薬に推し進められている。アステラス製薬の岡村直樹社長は「ピロイの成長について「臨床試験では副作用のため使用に」というイメージを持っていたが、



胃がん薬 一世界で存在感

アステラス製薬の胃がん領域事業はこれまで、イクスタンジがけん引してきた。同薬は24年度には9123億円を売り上げ、ピークを迎える。イクスタンジは27年に特許切れが迫る中、ピロイといった次なる製品が成長し、医療に新たな価値をもたらしている。ピロイは現在、隣がんなどを対象とした臨床試験も実施されており、がん領域で大きな存在感を示す製品へと成長が期待される。

ウェブでニュースは
いかがですか？



ニュースイッチ
NEWSWITCH

<http://newsswitch.jp/>

■ ニューススイッチとは？

日刊工業新聞社のニュースをはじめとするコンテンツを、もっと新鮮に、親しみやすくお届けするサイトです。少し硬い、難しいニュースをわかりやすく、または詳しく。話題のニュースから、小さいけれどちょっと面白いニュースを幅広い読者へ。そしてニュースを起点に、コミュニティを少しずつ作っていかたと考えています。

■ 独自のテーマ

ニューススイッチ編集部が独自に企画・取材した特集記事をはじめ、新聞とは一味違う切り口でニュースをお伝えします。

■ 記者が記事選定・コメントをプラス

日刊工業新聞の記者がテーマごとに気になる記事を紹介、コメント。記事や取材背景を解説します。